第65回日本PTA全国研究大会

第49回日本PTA東北ブロック研究大会 仙台大会

8/25,26に、5人で参加してきました。

今年のスローガンは

**つながろうPTA!子どもたちの輝く未来のために**

**～杜の都発!みちのくの今を伝えたい 感謝の思いと確かな歩みとともに～** でした。

1日目は分科会。私たちは第1分科会に参加しました。

開会式は、東日本大震災の犠牲者の方々への哀悼の意を評しての黙祷から始まりました。

基調講演の川島高之氏は、 期間限定の特権であるPTAの存在意義についてでした。

子どもたちの成長を見守り、笑顔を守っていくには家庭・学校・地域の三位一体の取り組みが不可欠であり、昨今の家庭環境の在り方から見ても、保護者同士が助け合いながら子育てしていく上で必要な存在なのだと。

また、PTA活動においては、 三位一体の潤滑油となり、 教師のサポーターとして行動していくことで、 ''世界一多忙な日本の教師たち''と言われている先生方の負担軽減に繋がる。 何より、''情報の共有とともに決断と思い切りを持って''が重要であると。

実践発表の斎藤望氏は、ワールド・カフェという話し合いの手法を用いることで、ゆるい繋がりから強い結束を築いていこう。というものでした。

縦の関係×横の関係を繰り返しシャッフルしていくことで コミュニティは出来上がっていく。 保護者でも教員でもなく、 地域の一人の大人''第三の大人''として人と交わり、公共力を持って共生していくことで、 ''第三の大人の集合体'' として、地域の子どもたちを見守り育て、 活きたPTA活動に繋げて行きましょう。というものです。

パネリストとして震災体験の 貴重なお話をされた瀬戸幸子氏は、仙台市立寺岡小学校の校長先生です。

被災し、学校が避難場所となった際、三位一体が密になっていた事で、迅速かつ的確な行動に繋がった。被災という大混乱の中では''知っている人''ということが、 何事をもスムーズに運ばせる重要なツールになったということです。

２日目は全大会。

記念講演は宮城県に縁のある方という事で、ウエイトリフティングの親子メダリスト、三宅義行氏と三宅宏実氏の親子講演でした。

子育て論とメダリストまでの道のり、 東北宮城への思いを語られました。

最後に、実行委員長さんが被災した際に命の危険を感じた津波の怖さを話され、 胸が苦しくなったのを忘れられません。

東日本大震災から六年半が経ち、 全国からの応援励ましに心からの感謝を述べられました。 杜の都仙台は緑に恵まれ、 三陸の海は穏やかでとても素敵なところでした。

しかし、今もなお、震災の爪痕は そこかしこに見られ、様々な誹謗中傷にさらされ、風評被害で苦しんでいるという現状もあります。 私たちができることは、正しい知識と判断で行動し、応援し続けていくことだと思います。

被災地では、子どもたちの笑顔が大人たちを勇気づけ励まし元気にした。というお話もありました。全国の未来あるすべての子どもたちが笑顔で過ごせるように、活きたPTA活動をしていきたいと思います。